

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171600240		
法人名	社会福祉法人 江差福祉会		
事業所名	シルバーハウス ケープ赤石		
所在地	爾志郡乙部町字元和84-8		
自己評価作成日	平成29年7月6日	評価結果市町村受理日	平成29年8月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0171600240-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中にあるケープ赤石です。夏の避暑地として建てられており、樹木に囲まれ沢山の鳥の鳴き声やその姿を見ては和ませて頂いております。また、食堂からは元和台公園で遊ぶ子供達の声が聞こえ皆さんが窓から目をやり微笑まれています。古い建物なので、至る所に段差がありバリアフリーならぬバリアアリーで生活しております。起床や就寝時には階段の上り下り、トイレは中まで車椅子で入って行けないので歩行しなくてはなりません。色々な箇所に不便はありますが、生活をしていく中でそれがリハビリとなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

乙部町北部の元和台海浜公園の側に「シルバーハウス ケープ赤石」は立地している。運営法人は長年にわたり松山管内に於いて、あすなろ学園、ケアハウス、各種就労支援事業などの障害者福祉事業全般の運営に携わっている。平成13年に当時の理事長が学園で生活している利用者の将来を心配して「若者と一緒の生活には困難をきたすのではないか」との考えから乙部町の旧ペンション跡を改装し、地域の高齢者と共に暮らせるように、さらに家賃を無料にして経済的負担の軽減を図り開設している。それから40数年の歳月を過ぎてこの建物を施工し、建築に携わった方が利用者として思い一杯この家で生活している。外観は洋館風であるが、事業所内は和風造りが随所に見受けられ、至る所に手すりが備え付けてある。管理者は職員全員の意見を図りながら就労環境を整え、職員は利用者一人ひとりに笑顔で声かけて個別支援に取り組んでいる。近年、夏は海水浴場やレストランを訪れる観光客で賑わい、周辺の広大な芝生から日本海を見渡せる自然豊かな環境の中で、古民家であるが家庭的な雰囲気があり、利用者は地域の資源を活用して穏やかな暮らしを確保している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人のプライバシーを念頭に置き、利用者が自分らしく自宅のように暮らせるホームであるよう会議を開催し意識の統一を図っております。	住み慣れた地域で人とのふれあいを大切にし、安心して暮らしと家族の不安の軽減を取り入れた理念を、職員会議の中で意見の統一を図り、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の花見や敬老会への参加、文化祭への作品展示・芸能発表会の見学を行っているが日常的な交流の機会を増やしていきたい。	町の文化祭に利用者の作品を展示したり、自治会のお花見や敬老会などに参加している。事業所周辺は高齢化が進み、管理者と職員は安否確認をかねて、挨拶や声かけを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族の面会時に話しをさせて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの取り組みやその実際を話させて頂いております。意見は常に反映させて頂いております。	管理者は地域密着型サービスとしての運営推進会議の役割と重要性について理解しているが、参加メンバーの高齢化や職員の異動などの諸般の事情により開催には至っていない。	家族の意向を確認して行政と連携をしながら会議の開催に向けて検討しているの、実現される事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	乙部町ケア会議や介護保険課の方と連絡を密にとっております。	町担当者とは運営推進会議の件で意見交換や職員確保での依頼、必要書類の提出など2週間ごとに訪問し、相談やアドバイスを受けるなど密に連携をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行っていますが、まだ不十分であり続けて行っています。現在の状況に合わせて玄関の施錠をしておりますが、出来るだけ外せるよう職員の配置を行っております。	徘徊する利用者の安全のために家族納得の上、玄関の施錠をする事もあったが、管理者と職員は身体拘束の内容や、その弊害について内部研修を行い見守りの方法を徹底し、鍵を掛けず自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の内部研修を行い話し合われているが、全体の理解がまだ不十分のため続けて行っています。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についての研修に継続して参加したいが無いのが実状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず家族の方と話しをし、その中での不安や疑問を解決しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や毎月の報告書にて現状を伝えております。また、その時に要望があった時は意見を反映しております。	毎月、全家族に月次報告書を発行し、現状を伝えている。遠方の家族には電話や便りで、地元家族には訪問時に意見を伺い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や職員会議において、意見や提案を聞き反映させております。	月1回の職員会議では、日常生活やケアのあり方など活発な意見交換が行われ、職員全員で検討し意見の統一を図ってから反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションにて常に状態を把握しそれを法人本部に報告しております。また、シフト作成時は必ず職員の休み希望を聞き反映しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	檜山支庁や北海道GH協議会の研修に参加できるよう考慮しております。また、研修後は職場内で報告を行い勉強会としております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャー連絡会や北海道GH協議会に参加し、そこで情報の交換を行っております。		

自己評価	外部評価	項目		自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と家族の方と面談し、サービスの開始にあたっての不安の解消や要望を取り入れケアプランに反映させております。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望は常に聞き安心して暮らせるよう努めております。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の方と面談を行い要望を取り入れケアプランに反映しております。				
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やお茶等、また一緒に作業を行い会話を交えながら楽しい場作りを提供しております。				
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、本人の近況を報告し談笑出来るよう場の提供をしています。				
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が尋ねてきたり病院受診時に馴染みの方と会い楽しく会話されています。また、馴染みの場所や人との連絡が取れるよう環境づくりに力を入れています。	家族がお友達を連れて訪問したり、馴染みの理容室に通っている。住所が母体法人施設となっている利用者は、施設の方々が隣接のレストランを訪れた時や健康診断時に再会できるよう配慮するなど継続支援をしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	簡単な塗り絵やゲーム等全員で取り組める活動の提供や居間での談笑時において、一人にさせないよう話し掛け関係作りを行っております。				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も面会やお見舞いをし本人との関係を大切にしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己選択・自己決定を重要に常に意思確認を行いながら進めております。	全利用者が意思疎通ができるので、自己選択や自己決定を尊重し、職員全員が本人の意向に合わせて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活のペースや暮らし方に配慮をし、その人らしく生活して頂けるように心掛けております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態等を把握し、表情・会話や小さな変化も見逃さないよう記入しております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言動を大切に、職員の気づきを会議で話し合いより良い生活が出来るようケアプランに反映させております。	本人、家族の要望を反映し、日々のケア記録から職員の意見を取り入れ、遠方の家族からは電話で伺いケア会議の中で話し合いを重ね、現状に合わせた介護計画を作成している。「介護計画実施チェック表」に実施した記録がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入漏れがないよう、常に職員会議の場で重大さを説明し情報の共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の日々の体調に合わせて希望に沿えるよう支援を行っています。美容室や買い物・病院受診等の支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防・周辺地域の協力を得ており非常時もお願ひしております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を継続しております。協力医療機関とも連携はとれております。	地元出身の利用者は、従来のかかりつけ医で受診している。母体法人の施設出身者は法人指定の医療機関を利用し、職員は受診や通院を支援している。夜間や緊急時の対応は町国保病院と連携して体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や訪問看護師の利用はないが、急変時は協力医療機関の相談や指示が受けられる状態になっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が同行し病院と情報交換を密に行っております。入院中は定期的に訪問を行い本人の不安な気持ちが軽減できるよう努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や医療が必要になった時は病院や特別養護老人ホームへの申し込みを行い退所の手続きへと進んでおります。	重度化や終末期については、入居時に家族に事業所の方針を説明し同意を得ている。緊急時の対応マニュアルを作成し、職員間で共有を図り、家族の協力を得て支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命を受講しております。また、定期的に行えるよう消防署とも連携をとっております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時にはどこにどのように避難するのかを掲示しております。また、緊急時には地域の方が協力して頂けるようお願いをしております。	春は消防署の協力のもと避難、通報、消火訓練を実施し消防署員の講話が行われている。秋には利用者が参加して総合的訓練を実施する予定である。備蓄は法人本部で防災関連事業を展開しているので連携し整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に会議での反省点として議題や課題となっており話し合われております。	日常的に利用者同士でのプライバシーの侵害に悩まされる事もあるが、職員は個々に合わせて人格を尊重し、支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中から、買い物や行きたい場所・食べたい物を聞いては行事や外出支援を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、本人の希望やペースに合わせた支援を心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣替えをお手伝いし季節・気温に合った洋服を提供しております。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	イモの皮むきやもやしのひげ取り等、全員でできる作業とお茶入れやおしぼりたみ・下膳や茶碗洗いといった個人の仕事として喜んで行っております。	公園レストランでの外食や、野外食事会、流しソーメンなど楽しい食事に工夫をしている。職員は利用者の出来る事を見極め一緒に後片付けをしており、一日の活動のひとつに取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好き嫌いの把握や摂取状況をこまめに記録しております。また、嫌いなおかずや飲み物の時は替わりの物を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを全員行っており、1週間に2回義歯洗浄剤を使用し1週間に一度歯科医が来所し口腔ケアや治療を行って頂いております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見てトイレ誘導を行う事により、布パンツになっている方もおりますが不安を訴える方には、無理強いをせず本人の意思を尊重しております。	職員は排泄パターンに合わせ、声かけや誘導に取り組み、トイレでの排泄を可能にし、布パンツに変える事により利用者の喜ぶ声が伝わっている。夜間は安眠を考えているが、夜間対応も個々の意志を尊重し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	天候の良い日はできるだけ散歩に出て軽運動を実施しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設けております。本人の希望で順番と一緒に入る人を決め、歌を唄ったり談笑されたりしております。	浴槽内には手すりが完備されている。利用者の背丈に合わせてステップ台、浴槽台などが用意され週2回の入浴を目安にしている。利用者は仲良し同志や歌を唄い、職員は本人に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良以外の睡眠は30分くらいで起きて頂き、夜間の睡眠の妨げにならぬよう配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の服薬変更時には申し送りを徹底し把握・確認を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の仕事として個人の能力に合わせた役割を行って頂いており、誰かの役に立つことのできる喜び・感謝として張り合いのある日常へと繋げております。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応ができるのが理想ではありますが、職員の人数に限りがあり複数での外出となっております。誕生会では本人の要望を聞き外食会を行い、または家族の協力を得て自宅に行く事もあります。	隣接している元和台公園の広大な芝生を散歩したり、町内を地域の人に声をかけながら散策している。春には隣町で家族が経営する洋菓子店で数多くのお雛様を眺めながらお茶会をするなど、積極的に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預り金は事務所に管理しており、現在自分で管理できる方がいない為買い物へ行く時は職員が会計時支援をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方が1名おり家族との連絡は自由に行っております。本人の要望や家族からの電話があった時は電話口に出て会話をさせていただきます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花のある季節は利用者が取ってきて飾り、壁面には自分で制作した作品を飾り、天候を見て居間や食堂は窓を開け心地良い風や光・鳥の鳴き声等、癒される空間となっております。	外観は洋館風の建物であるが、内部は和風造りが随所に見受けられ、手すりが完備されている。玄関脇のロビーにはテレビやソファが置かれ、居場所が確保されている。利用者の作品や懐かしい歌の歌詞が張られ、天井が高い食堂は開放感があり、家庭的な雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自分の居室に行きそこで過ごされたり、食堂のソファで過ごすこともあります。居間では談笑されている姿が多く見られております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族と相談をし、今まで使用していた馴染みのある物を持ってきて頂き居室に置くことで安心感を持って暮らしております。	立派な飾り棚を備え付けた床の間のある純日本風の和室にベッドやテレビなどの家具や日用品が持ち込まれ、窓から爽やかな風と共に緑豊かな木々の香りと蝉の声が入る居室はその人らしく暮らせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に暮らして頂くために廊下やトイレには手摺りを設置し、出来るだけ自分の力で歩いて頂くよう支援をしております。また、居室やトイレには分りやすく表記することで自ら行っております。		

目標達成計画

事業所名 シルバーハウス ケープ赤石

作成日：平成 29年 8月 17日

市町村受理日：平成 29年 8月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	・運営推進会議の開催に至っていない。	・運営推進会議を早急に行う。	・家族や行政・その他の機関に連絡し、運営推進会議のメンバーとして参加して頂くよう要請する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。